

国語・算数科 学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日(〇)
 第6校時 13:45～14:30
 対 象 小学部第3学年 5名
 学校名 特別支援学校
 授業者 T1 〇〇 〇〇
 T2 〇〇 〇〇
 会 場 教室

1 単元名

なんばんめ～数字で場所を説明しよう

2 単元の目標

国語

- ・教師との会話や音読を通して、位置を表す言葉を使った表現を聞いたり話したりする。
- ・様々な伝え方があることに気付き、ものの位置を伝える言葉を考える。
- ・言葉を使って人や物の位置を自分なりに教師や友達に伝えようとする。

算数

- ・位置を表すのに数を用いることができる。
- ・数とものの位置との関係に着目し、表し方について考え、学習の中で生かすことができる。
- ・数とものの位置との関係に関心を持ち、身の回りから数で位置を表現できるものを選んだり見つけたりして、表現しようとする。

3 単元の評価規準

| ア 知識・技能 | イ 思考・判断・表現 | ウ 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|---|
| ①教師との会話や音読を通して、位置を表す言葉を使って表現を聞いたり話したりしている。(国語) ②位置を表すのに数を用いている。(算数) | ①教師や友達との伝え方の相違を基にして、様々な伝え方があることに気付き、ものの位置を伝える言葉を考えている。(国語) ②上下の位置を説明するときの考え方・伝え方を前後や左右の位置を説明するとき用いる等、学習 | ①言葉を使って人や物の位置を自分なりに教師や友達に伝えようとしている。(国語) ②身の回りから数で位置を表現できるものを選んだり見つけたりしている。(算数) |

4 指導観

(1) 単元観

本単元は特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成 29 年 4 月告示）第 2 章第 1 節第 2 款

【国語】

2 段階（2）内容

[知識及び技能]

ア（ウ）身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。

[思考力、判断力、表現力等]

A 聞くこと・話すこと

ウ 体験したことなどについて、伝えたいことを考えること。

【算数】

2 段階（2）内容

A 数と計算

ア（ア）次のような知識及び技能を身に付けること。

㊦数の系列が分かり、順序や位置を表すのに数を用いること。

（イ）次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

㊦数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすこと。

を受けて設定し、主に 2 段階の内容を扱う。

本単元では、「～(位置を表す言葉)から～(数)番目」の文型で数と言葉を組み合わせてものの位置を説明できるようになるように指導する。

国語の観点からは、様々な伝え方があることに気付き、ものの位置を伝える言葉を考えられるように指導する。ものの位置の説明と言っても、児童からは生活経験や本単元の学習過程で身振りや言葉を使って様々な伝え方が出てくることが想定される。それらをグループ全体で共有し、より良い表現を考えたり、表現の相違に面白さを感じたりできるように指導する。

算数の「数と計算」の領域の観点からは、「～番目」という順序数を用いて位置を表現できるようになるように指導する。その学習過程においては、「(上下前後左右)から」という基準点を定める必要があること及び基準点が変わると表現に使う数字が変わる場合があることへの気付きを大切に指導する。また、既習の集合数と区別した上で関連付けて順序数を理解できるように、単元の中で改めて集合数についても取り扱う。

(2) 児童観

本グループは、知的障害がある児童 3 名、自閉症スペクトラム障害がある児童 2 名から成る。

国語については、簡単な文章で教員や他の児童と会話ができ、内容を整理して説明することが課題となる児童 4 名、単語中心のやり取りができ、言葉をつなげて文の形で伝えることが課題の児童 1 名から成る。音読については、全員が平仮名の清音を正しく読むことができ、3 名は特殊音節や片仮

名、小学校の1～2年生で学習する一部の漢字を読むことができる。また、3名は単語や句のまとまりで読むことができる段階であり、2名は拾い読みの段階である。

算数の「数と計算」領域については、5名中3名は10以上の数の系列や集合数、大小関係を理解できている。残り2名は大小比較で多い・少ないの言葉の使い分けが課題となっているが、その内の1名は10以上の、もう1名は0から6までの系列や集合数を理解できている。「測定」領域については、どの児童も二つの量の大きさを比べて、大小や長短などの言葉で表現することができる。5名中3名は比べる対象によって大きい・小さい、長い・短いなどの用語を確実に使い分けことができ、2名も不確実ではあるができるようになってきている。また、一人であるいは教員や他の児童を模倣して、端をそろえて三つ以上の物の大きさや長さを比べることができるようになってきている。

自立活動の観点からは、「4環境の把握(5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること」について、大小比較など基本的な概念が分かってくる概念形成の芽生えの段階の児童が3名、大小比較などに加えて空間関係などの基本的な関係の概念が形成された段階の児童が2名いる。

(3) 教材観

【おおきなかぶ】(単語や句のまとまりで音読ができる3名の児童用) 火曜日に実施

「おおきなかぶ」(A.トルストイ 再話、内田莉沙子 訳、1966)は、大きな蕪を登場人物が協力して引き抜くという絵本である。児童にとっては読み聞かせ等で馴染みのある絵本ではあるが、本単元では文量や使われている言葉の難易度、繰り返しの多い文の構造が児童の実態に合っていると考え、音読の教材として設定した。この絵本には位置を表す言葉が直接出てくるわけではないが、登場人物が前後1列に並ぶ様子が挿絵に描かれており、各登場人物の位置を問いかけることで、本単元のねらいに沿って位置を表す言葉や数を学ぶことができると考える。音読は、テキストを保存したタブレットを全員に配付して使用し、3名の児童が1ページ読むごとに交代して順番に行い、残りの2名はテキストを見ながら3名の音読を聞く。また、本文は児童の実態に合わせて一部の平仮名表記を漢字表記に変えている。

音読を始める前には教員が児童1名につき1個設定した目標をタブレット上で確認し、音読後に3名は読み方、2名は聞き方について2段階で自己評価を行うことで主体的な参加を図る。また、「どこの読み方を工夫した」「誰のどの部分の読み方が分かりやすかった」等と発問し、それに対する回答を全体で共有することで、読み方の改善につなげられるように指導する。

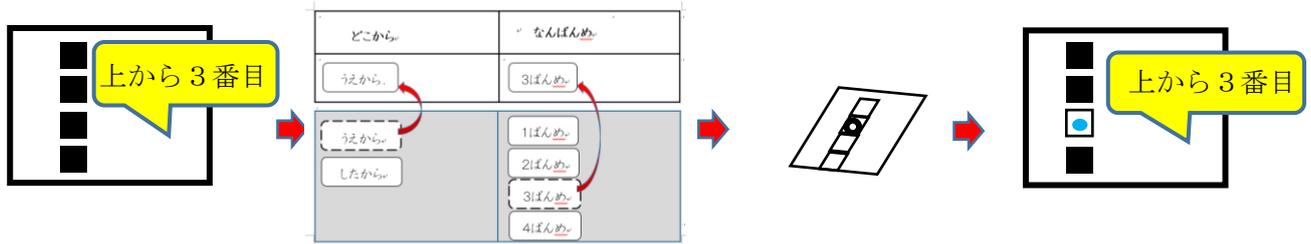
【うしろにいるの だあれ】(拾い読みの段階の児童2名用) 金曜日に実施

「うしろにいるの だあれ」(ふくだ としお、ふくだ あきこ、2008)は、「かめくんの うしろにいるの だあれ」等の簡潔な文と見開き1ページにつき1匹の動物が描かれた絵本である。単語と挿絵の対応関係が明白で、文字数が比較的少なく、展開も繰り返しの構造をとっているため、拾い読み段階の児童に合っていると考え、音読用教材として設定した。自分で音読したり友達の音読を聞いたりしながら位置を表す言葉に触れたり、空間イメージをもったりすることをねらいとする。音読の進め方は上述と同様に行う。

【○さがし】

「(上または下) から～番目」という指示を聞いて、教室前方のホワイトボードに貼られたカードの中から裏面に丸が描かれたカードを特定する活動である。自分で指示文を作ることにつなげるという意図から、①指示に合わせて手元のホワイトボードに上下と数字のカードを選んで貼る②手元のホワイト

ボードを見て、プリントに描かれたマスの中の指示された位置に丸を描く③実際にカードをめくって答え合わせをする、以上の手順で児童は解答するようにする。これと似た手順は、以前学習した「みて、きいて、さわって つたえよう」の単元でも取り組んでおり、課題の意図が理解しやすいと考えられる。



5 年間指導計画における位置付け

小学部3年は1単位時間が45分間の「国語・算数」を週2時間設定し、実態別のグループに分かれて学習している。

国語・算数における本グループの年間指導計画では、目標を以下の通りに設定している。

- (1) 身近な言葉が表す意味や数量・図形などについての基礎・基本的な概念を理解する。
- (2) 見聞きしたことを言葉や数字で伝えあったり、その内容に応じて行動したりする。
- (3) 言葉やお話、数学的活動に興味・関心をもち、学んだことを学習や生活で使おうとする。

| 月 | 単元名 | 主なねらい |
|------------|-------------------|---|
| 4月 | じこしょうかいをしよう | ○自己紹介のやり方や質問のしかたを覚える。(国語) ○年齢や誕生日など、自分や身の周りの人に関する数に関心をもち、数を言ったり書いたりして表現する。(算数) |
| 5月 | かぞえよう、あわせよう | ○ひらがなや漢字で名詞や助数詞を書く。(国語) ○数の数え方や計算の仕方を考える。(算数) |
| 6月 7月 | 三びきのやぎのがらがらどん | ○話に出てくる人物などを捉えながら読む。(国語) ○大きさや長さ、多少などの属性に注目し、量の大きさを比べる。(算数) |
| 9月 | みて、きいて、さわって つたえよう | ○見聞きしたことについて伝えることを考え、様子を表す言葉で表現する。(国語) ○形や量の大きさの違いに関心をもち、観察し、比べようとする。(算数) |
| 10月 | どちらがいくつおおい、すくない? | ○話の大まかな流れを捉えながら読む。(国語) ○二つの数の大きさの比べ方について考え、一方を基準にして数の多少を表現することができる。(算数) |
| 11月 12月 | いま、なんじ? | ○登場するものの動作や様子を思い浮かべてお話を読む。(国語) ○時計の数字や表す時刻に関心をもち、読み取ろうとする。(算数) |
| 1月 (本時) | なんばんめ～数字で場所を説明しよう | ○様々な伝え方があることに気付き、ものの位置を伝える言葉を考える。(国語) ○数とももの位置との関係に着目し、表し方について考え、学習の中で生かすことができる。(算数) |

| | | |
|----|----------|---|
| 2月 | かたちを作ろう | ○図形を見たり触ったりして気付いたことを言葉で伝える。(国語) ○三角や四角などの図形の特徴(角の数など)について知る。(算数) |
| 3月 | おかいものごっこ | ○役割遊びをとおして、場面に応じた言葉でやりとりする。(国語) ○20や1000以上までの数の概念や表し方について理解する。(算数) |
| 通年 | 個別学習 | ○プリント学習(国語)(算数) 本時の復習または関連する課題、文字の読み書きや計数などの個別課題 |

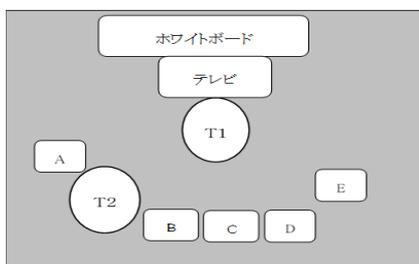
6 単元の指導計画と評価計画(全10時間)

| 時間 | 目標 | 学習内容・学習活動 | 評価規準 (評価方法) |
|-------------------------------|---|--|--|
| 第1時 (本時) 第2時 第3時 | ・言葉を使って人や物の位置を自分なりに教師や友達に伝えようとしている。 | ○音読を通して位置を表す言葉を声に出したり聞いたりする。 ・音読 ○丸の位置の説明の仕方を考え、位置を表す言葉(上・下)と数で説明できることを知る。 ・「○さがし」→1・2時 ○上・下の語と数で位置を説明する。 ・「○がある場所を説明しよう」→3時 | ウ-① (「○さがし」での発問への応答の様子、「○がある場所を説明しよう」に取り組む様子) - 1・2・3時 |
| 第4時 第5時 第6時 | ・数とものの位置との関係に着目し、表し方について考え、学習の中で生かすことができる。 ・様々な伝え方があることに気付き、ものの位置を伝える言葉を考える。 | ○各自の目標を意識して音読の活動に参加し、位置を表す言葉を声に出したり聞いたりする。 ・音読 ○前時までの学習内容を基に座席の位置の説明の仕方を考え、前・後の語と数を使って説明する。 ・「座った場所を説明しよう」→4・5時 ○位置を表す言葉と数を使って友達とやり取りをする。 ・「座った場所を説明しよう」→6時 | イ-① (教師や友達の説明に対する発言、友達の表現を真似する様子) - 4・5・6時 イ-② (座席の位置の説明の仕方を考えている様子) - 4時 |

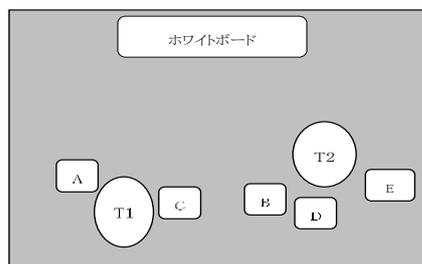
| | | | |
|----------------------------|---|--|--|
| <p>第7時 第8時 第9時</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・教師との会話や音読を通して、位置を表す言葉を使った表現を聞いたり話したりする。 ・様々な伝え方があることに気付き、ものの位置を伝える言葉を考える。 ・数とものの位置との関係に着目し、表し方について考え、学習の中で生かすことができる。 ・位置を表すのに数を用いることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○音読の活動に参加し、登場人物の位置関係について理解する。 ・音読 →7・8時 ○自分の音読について、単元の学習をとおして良くなった部分に気付く。 ・音読 →9・10時 ○左・右の言葉が示す位置を知る。 ・旗上げ →7・8・9時 ○前時までの学習内容を基に座席の位置の説明の仕方を考え、右・左の語と数を使って説明する。 ・「○がある場所を説明しよう」 →7・8時 ○位置を表す言葉と数を使って友達とやり取りをする。 ・「○がある場所を説明しよう」 →9時 | <p>ア - ① (音読したお話に関する発問への応答、「○がある場所を説明しよう」における友達の説明を聞き取る様子) - 7・8・9時</p> <p>イ - ① (教師や友達の説明に対する発言、友達の表現を真似する様子) - 7・8・9時</p> <p>イ - ② (丸の位置の説明の仕方を考えている様子) - 7時</p> <p>ア - ② (やりとりの様子) - 9時</p> |
| <p>第10時</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りから数で位置を表現できるものを選んだり見つけたりして、表現しようとする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○身の回りから、前後上下左右の語と数で位置を表現できるものを選んだり見つけたりして表現しようとする。 ・身の回りから前後上下左右の語と数で位置を表現できるものを探す。 | <p>ウ - ② (表現するものを選んだり探したりしている様子)</p> |

7 配置図

○集団学習



○個別学習



8 指導に当たって

(1) 研究テーマ「単元計画と評価計画の充実」に関する工夫

- ・知識及び技能については、単元を通して思考・判断・表現を行う中で確かなものになると考え、単元後半に評価場面を設定した。思考力、判断力、表現力等については、学習した見方・考え方を働かせて考えたり、友達との対話をとおして考え方や表現の仕方の相違について考えたりする中で主に育まれると考え、中盤に評価場面を設定した。学びに向かう力、人間性については、本単元では「発問に対して粘り強く思考・表現し、学習課題に気付くこと」及び「学習内容を応用できる場面を見つけること」と捉え、前者を単元前半に、後者を単元後半に評価場面を設定した。

9 本時(全10時間中の第1時)

(1) 本時の目標

- ・教師との会話や音読を通して、位置を表す言葉や付属する助詞を話す。

(2) 本時の展開

| 時間 | ○学習内容 ・学習活動 | 指導上の留意点・配慮事項 | 評価規準 (評価方法) |
|------------|---|--|--------------------|
| 導入 2分 | ○授業の始まりを意識する。 ・挨拶 ○学習への見通しをもつ。 ・学習予定と目標の確認 | ・姿勢を整えられるように言葉かけや絵カードの提示を行う。 ・学習の予定と目標を画面上で示す。 | |
| 展開① 20分 | ○音読を通して位置を表す言葉を声に出したり聞いたりする。 ・「うしろにいるのだあれ」の音読：児童BD ・音読を聞く：児童ACE ・読み方や聞き方についての自己評価 ○数で集合数や順番を表せることを確認する。 ・4種類の動物が競走するアニメーションを見て着順を答える。 ○ものの位置の伝え方を考える。 ・スライド(別紙参照)を見て、発問に答える。 | ・始めに、児童一人一人に目標を提示する。 ・読み方の工夫の例をT1が示す。 ・自己評価の後、T1・T2からも評価を伝える。 ・音読後、文中に上や下等の位置を表す言葉が出てきたことをT1が強調して伝え、この後で位置の説明の仕方を考える手掛かりにできるようにする。 ・4種類の動物の体の一部が上下一列に並んだ図をホワイトボード(児童の手が届かない位置)に提示し、「～(動物の名前)はどこ？」と問いかけ、興味を引き出す。 ・児童が指さしや「～の下」「～番目」等、確実には位置が伝わらない言葉で答えた場合には、T1が意図的に誤った絵を指さし、児童がより伝わりやす | ウ-① (発問への応答の様子) |

| | | | |
|------------|--|---|--|
| | | <p>い伝え方を考えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童から出ることが予測される表現をカードにして予め用意しておき、実際に児童が表現したタイミングで貼り出すことで、全体で共有し、考えるヒントにできるようにする。 ・児童が自発的に「(上・下)から～番目」と表現した場合には、「～番目」という伝え方と比較させることで、基準点の必要性に気付けるようにする。 | |
| 展開② 15分 | <p>○丸の位置の説明の仕方を考え、位置を表す言葉(上・下)と数で説明できることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○さがし | <ul style="list-style-type: none"> ・一問終わるごとに指示文を声に出して読み、定着を図る。 ・誤りそうな場合にはマスの上端と下端に「うえ」「した」と教員が書いたり、一緒に指をさしながら数えたりすることで直せるようにする。 | |
| 個別学習 5分 | <p>○本時の学習内容を復習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習用課題、関連課題のプリント(別紙参照) | <ul style="list-style-type: none"> ・事前に終了時刻を示す。 | |
| まとめ 3分 | <p>○本時の目標が達成できたかどうかを確認したり、次時の学習に関心をもったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返り、次時の予告 <p>○授業の終わりを意識する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童が頑張っていた点を取り上げ称賛する。 ・姿勢を整えられるように言葉かけや絵カードの提示を行う。 | |

(3) 板書計画

○パワーポイント・スライド

| |
|--|
| <p>おんどく</p> <p>1. 音読</p> <p>2. ○さがし</p> <p>3. こべつがくしゅう</p> |
|--|

(4) 授業観察の視点

- ・評価を行うタイミング(評価計画)は妥当であったか。
- ・児童が「できた、わかった」と感じられる目標設定と評価基準となっていたか。